Interview チームを優勝へと導いたキャプテン

絶対に崩れない

5 DF 山本 凌（やまもと りょう） 主将
3年（愛知県出身）

明秀日立のサッカー部員は135人で、チームは、上からトップ、セカンドなど、6チームに分かれていますので、サッカーでは皆がライバル関係ですが、皆仲良く生活しています。

先の関東大会県予選で霞ケ浦高校に2回戦で負けた後、監督の指導の下、仲間たちとしっかりコミュニケーションを取れたことがよい雰囲気づくりにつながり、県大会決勝で霞ケ浦高校にリベンジを果たし、全国大会でも強豪校に勝利し、優勝することができたと思っています。

キャプテンとして、どんなピンチの時でも自分は絶対に崩れないという気持ちで試合に挑んでいましたが、4回戦の高知戦は青森山田との激戦の疲れからか心身ともに辛い状態でした。監督や仲間たちのフォローもあり何とか戦い抜き、皆の力で勝つことができました。

冬の選手権に向け、チーム・自身により磨きをかけ、また日本一を目指して頑張りたいと思いますので、応援よろしくお願いします。

全国で躍動した日立市出身の選手たち Interview

チームの司令塔

7 MF 吉田 裕哉（よしだ ゆうや） 選手
3年（大久保中出身）

中学校の先輩が明秀日立のサッカー部として、冬の選手権県大会の決勝で点をとった姿に憧れて入学しました。

初戦の静岡学園は、個人の能力の高さを感じましたが、チームの司令塔として「自分たちの力を出し切れば必ず勝てる」とチームメイトを鼓舞し、突破することができました。

決勝の桐光学園戦では、PKで最初のキッカーを務めさせていただきました。緊張というよりはすごく研ぎ澄まされた感覚となり、冷静にゴールを決めることができました。

自分たちが何不自由なく練習できるのは、監督やコーチ、家族、仲間、そして地域の皆様のおかげです。

明秀日立はチーム全体で勝つサッカーです。これからもその強みを磨き、冬の選手権も優勝を狙います。応援よろしくお願いします。

最前線で身体を張ってプレー

9 FW 熊﨑 瑛太（くまざき えいた） 選手
3年（助川中出身）

中学生の時に、明秀日立が冬の選手権の県予選で優勝したのを見て、地元の強豪校でサッカーをやりたいと強く思いました。

準決勝の日大藤沢戦では、フォワードとして最前線で体を張ってプレーをし続け、2得点を上げることができ、チームの勝利に貢献することができました。とても嬉しかったです。

明秀日立サッカー部は部員数の多い強豪校の一つです。私は、中学生で県選抜などに選ばれたこともなく、普通の部活でサッカーを行ってきただけですが、地元出身というプライドと強い気持ちで日々の練習に励んできました。

今回の優勝は、市民の皆様の応援があったからこそ勝ち取れたものだと思っています。冬の選手権も頑張りますので応援よろしくお願いします。

⑬MF 3年 益子峻輔　⑭MF 2年 阿部巧実　⑮MF 2年 川口 嵐
⑱FW 2年 保科愛斗　⑲MF 3年 斉藤生樹　⑳FW 3年 新 陽樹

①校内での優勝報告会
②③日立シビックセンター新都市広場で市民に優勝を報告

優勝を決めた守護神

決勝の桐光学園戦でPKを迎えたときは、「ここを守ればヒーローになれる」というプラスな気持ちを持って臨むことができました。相手チームのキッカーは全員上手かったですが、事前の情報収集とキーパーとしての経験・勘から予測した方向に飛んだ結果、セーブすることができました。

冬の選手権は「一戦必勝の気持ち」を持ち、まずは県予選をしっかり勝ち抜いて全国大会への出場を目指したいと思います。

12 GK 重松（しげまつ） 陽（はる） 選手
2年（神奈川県出身）

この度の本校サッカー部全国高校総体男子サッカー競技大会優勝に際しましては、地元日立市の皆様から多大なる励ましのお言葉や力強いご声援を頂き、誠にありがとうございました。

この度の全国高校総体では初戦から強豪校との対戦となり、それでも選手たちは「挑戦」の精神で一戦一戦全力で臨み、見事優勝、「日本一」を勝ち取ることができました。この結果につきましては、選手たちの努力もさることながら、地元日立市を中心とする地域の皆様からの励ましや力強い声援のお陰だと心より感謝しております。

今後もこの成果におごらず、地域に根ざし、地域から愛され、地域に夢を届けることができる明秀学園日立高等学校として、そして、「日立の地に明秀学園日立高等学校あり」と言われるよう、サッカー部のみならず、学園全体で精進していく所存でございます。

今後とも、日立市民の皆様方の一層のご支援・ご指導を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

塙　定之 校長

萬場監督就任後の主な戦績

平成19年	萬場監督就任
平成22年	冬の選手権大会県予選ベスト4（初）
平成24年	インターハイ全国大会初出場
平成27年	インターハイ全国大会出場（2度目） 冬の選手権全国大会初出場、2回戦進出
平成29年	冬の選手権全国大会出場（2度目）、ベスト8
平成30年	インターハイ全国大会出場（3度目）、ベスト16 冬の選手権全国大会出場（3度目）、2回戦進出
平成31年	冬の選手権全国大会出場（4度目）、2回戦進出
令和5年	インターハイ全国大会出場（4度目）、優勝

令和5年度 全国高等学校総合体育大会（インターハイ）
7月29日－8月4日

1回戦	対 静岡学園（静岡）	2対1
2回戦	対 関西大学第一（大阪）	2対0
3回戦	対 青森山田（青森）	1対0
準々決勝	対 高知（高知）	1対0
準決勝	対 日大藤沢（神奈川）	3対1
決勝	対 桐光学園（神奈川）	2対2 （PK 7対6）

インターハイ登録メンバー (2)
＊○数字は背番号

⑪FW 3年 石橋 鞘
⑫GK 2年 重松 陽
⑯FW 2年 柴田健成
⑰MF 2年 竹花龍生